

学 年

中・高

# 主語と述語だけの文になおそう

年 組 氏名

☆たくさんの修飾語しゅうしよくごをつけた文を、主語と述語だけの一文になおしましょう。

例 生まれたばかりの小さな赤ちゃんが、大きな声でなきました。

一文の例・・・(赤ちゃんが)、(なきました)。

①青くすんで、銀色にかがやく海の中に、赤くて大きい魚が、一匹だけ住んでいました。



主語

( )

述語

( )

( )

③あせにまみれた気持ち悪さよりも、ひきょうなことをしたことへの後悔こうかいが、ぼくの気持ちをおちこませていた。

主語

( )

述語

( )

( )

②目を回すほどおなかをすかせていたぼくは、ほかのゆげをたてている肉まんのおいだけで幸せだった。

主語

( )

述語

( )

( )

④森の中を走りぬける列車に乗って、どこか遠くの国に行きたいというぼくのゆめが、もう少しのところでないそうになった。

主語

( )

述語

( )

( )



学 年

中・高

# 主語と述語だけの文になおそう

年 組 氏名

☆たくさんの修飾語をつけた文を、主語と述語だけの一文になおしましょう。  
しゅうしよくご

例 生まれたばかりの小さな赤ちゃんが、大きな声でなきました。

一文の例・・・(赤ちゃんが)、(なきました)。

①青くすんで、銀色にかがやく海の中に、赤くて大きい魚が、一ぴきだけ住んでいました。

主語

述語

(魚が)、(住んでいました)。



②目を回すほどおなかをすかせていたぼくは、ほかほかのゆげをたてている肉まんのおいだけで幸せだった。

主語

述語

(ぼくは)、(幸せだった)。

③あせにまみれた気持ち悪さよりも、ひきょうなことをしたことへの後悔こうかいが、ぼくぼくの気持ちをおちこませている。

主語

述語

(後悔こうかいが)、(おちこませている)。

④森の中を走りぬける列車に乗って、どこか遠くの国に行きたいというぼくのゆめが、もう少しのところでないそうになった。

主語

述語

(ゆめが)、(かないそうになった)。

